

おもいやり通信

発行:社会福祉法人 清水保育園
幼保連携型認定こども園 清水こども園
発行日:令和3年10月22日

第42号

緊急事態宣言が解除され、ワクチン接種等も進んできましたが、日々の消毒やマスクでの予防は欠かせませんね。様々な予防対策は、これからの季節、コロナウィルスだけでなく、インフルエンザ等の感染症からも“自分を守る”だけでなく、“周囲の人も守る”事にも繋がる思いやりのひとつともいえると思います。また、以前のように顔を見合わせて笑い合える日々が来るように、一人一人が心がけ、気持ちを一つに収束に向かっていけると良いですね。



＜おもいやりテーマ＞**ふわふわことばとちくちくことばをかんがえよう**
年間を通して実践していきましょう

思いやり3原則（手伝う・励ます・ありがとう）

- ①手伝う（他の人のために 喜んで手伝おう）
- ②励ます（元気づけよう、応援しよう、優しい心を送ろう）
- ③ありがとう（感謝の心で ありがとうを伝えよう）

4ヶ月に一度行う思いやり集会。今はコロナウィルス感染予防の観点から放送で行い、その中で”omoiyariのうた”を流しています。どのクラスも静かに体を揺らしながら聴き入っている、とても優しく心温まる歌です。YouTube 配信もしているので、ぜひ聴いてみてください。

今年度のメイン活動

＜思いやりカルタづくり＞

今年度は、保護者の皆様の協力をいただきながら「思いやりカルタ」を制作していきます。

※「思いやりカルタ」は、平成25年度に思いやり活動の一環として、保護者の皆さんから、読み札の文句や思いやり写真を募集して、園で1度作成したことがあり、現在も子どもたちが遊んでいます。8年ぶりに新しい「思いやりカルタ」を作りたいと思います。

ご家庭へのお願い

前回の募集に続き、「た～は行」にもたくさんのご応募、ありがとうございました。

次回は「ま～わ行」の読み札、写真・イラスト等の募集をします。

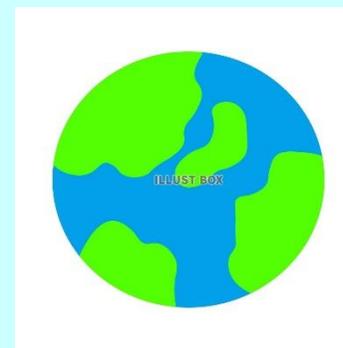
近日中に案内を配布いたしますので、たくさんのご応募、お待ちしております！

カルタ アイディア募集
(ま～わ行)
募集期間 11月～1月末



omoiyariのうた 作詞・作曲：藤田 恵美

もしも人々が「思いやり」をなくしたら
地球は一秒で消えてしまうね
だって僕たちは「思いやり」に包まれて
生まれて来た 育てられた



水や空気が必要なように
誰もが一人で生きてはゆけない

倒れそうな人にはそっと手を差し伸べて
OMOIYARIは心を温めるプレゼント
「ありがとう」って言われたらなぜか嬉しくなったよ
OMOIYARIは世界を幸せにする魔法



もしも友達が悲しい思いしてたら
知らないふりなんてしたりしないで
だって僕たちは希望を握りしめて
生まれて来た地球（ほし）の仲間

海や山や森や動物も
僕たちの「思いやり」で未来が変わってゆく

自分勝手はやめてみんな笑顔にしたい
OMOIYARIは心を温めるプレゼント
難しそうだけれどちゃんと心にあるよ
OMOIYARIは世界を幸せにする魔法

前回の思いやり通信では、“共感力とは思いやりの心”と、相手の気持ちを考えられるようになるには…とありましたね。分かってはいても、自分に余裕がない時は、難しいと感じる事も多々あるかと思います。

- 家事が溜まっている
- 仕事に追われている
- 時間がない
- リフレッシュできていない等…



そんな気持ちが少しずつでも積み重なっていくと、心に余裕がなくなってしまう、些細なことでイライラしたり、つい子どもにきつく当たってしまって自己嫌悪…「こんなはずじゃなかったのに…」と感じる経験をしている方、多いのではないのでしょうか。

そんな時は、お子さんに「今日も一日よく頑張ったね。」と寝る前に声を掛けてあげてください。ぎゅっと抱きしめたり、触れ合うことも良いと思います。そのひと時があると、嬉しい気持ちで一日を終え、子どもにとって明日への大きな力になるはずです。そして、その言葉を、ぜひ、自分自身にも唱えてあげてください。「こんなはずじゃなかったのに…」と感じる日でも、自分を責めるのではなく、疲れたからかな・たくさん頑張ったからかな・最近休めてなかったからかな…と、自分の状況を受け止めてあげてくださいね。自分の事も受け止めて理解する事で、少し心に余裕が出来るかもしれません。

また、そんな中、お子さんが**お手伝い**してくれれば助かる事もあるかと思います。人間は“相手を喜ばせたい”という気持ちが備わっています。5歳くらいになると、人の気持ちを理解する“共感脳”が発達し、自分の行動や言葉が相手にどんな影響を与え、どんな気持ちにさせているか理解出来るようになってきます。そこから他人への思いやりの気持ちも育まれていくのです。

では、いつ頃から**お手伝い**を始めさせたら良いか、どんな**お手伝い**が良いのでしょうか。



お手伝いは、意思疎通が出来るようになった1~2歳から始めさせる人が多いです。2~3歳はいよいよ期と重なり上手いかずに苦戦することがあるかもしれません。しかし、この年齢は好奇心旺盛な時期でもあるので、保護者の方は辛抱強く向き合うことが重要になってきます。そして、お手伝いが出来る様になってきたら、子どもに合わせてレベルアップしていけるとよいですね。

しかし、自分でやった方が早い、忙しい時に失敗されるとイライラしてしまう…と感じることもありますよね。ある程度、保護者の方にも時間と気持ちに余裕がないと、お手伝いをお願いする機会を作る事は難しいかもしれません。ですが、子どもが**お手伝い**から得られることはたくさんあります。

☆自信がつく

お手伝いが出来た事の達成感によって自信がつきます。また褒められることで認められたと感じ、自己肯定感が育ちます。自分を大切に思う気持ちは、誰かを大切に思う気持ちにもつながります。

☆責任感が芽生える

自分の役割を与えられると家族のために奮闘するものです。最後までやり遂げることが出来る責任感を養うことが出来ます。

☆家族間でコミュニケーションがとれる

共働きで子どもと過ごす時間が少なくても、お手伝いを通してコミュニケーションをとることで子どもの心が満たされ、一緒に過ごす時間も充実します。



☆手指の発達

細やかな作業をすると、手先が器用になり、反射神経が身に付くだけでなく、脳が活性化することも期待できます。

☆工夫することを覚える

お手伝いは失敗の積み重ねです。何度もチャレンジしていくうちに、次はどうすればうまくいくのかを考えるようになり、自分で考えて行動する力が身に付きます。

年齢が低いうちは、一緒に遊びに交えながらシールを貼ったり、子ども専用の料理グッズや掃除グッズを用意するのも楽しくできるコツです。子どもが楽しみながら出来れば、習慣化しやすくなりますね。始めは遊びの一環だった**お手伝い**も、成長するにつれて、“家事は家族が生活していく上で必要なことなのだ”と理解していきます。

保護者の方には負担がかかることもありますが、休みの日、少しの間でも**お手伝い**をしてもらう機会を作ってみてはいかがでしょうか。